

資料3

日本の絶滅のおそれのある野生生物

—レッドデータブック—

(脊椎動物編)

1991年4月 初版第1刷 発行 環境庁/環境庁自然保護局野生生物課

硬骨魚類 <サケ目 サケ科>

絶滅危惧種

和名 サツキマス 学名 *Oncorhynchus ishikawai* Jordan et McGregor, 1925.

(異名) ナガラマス、アマゴマス

(ピワマスと同種別亜種とみなし、*O. rhodurus* を用いる場合もある)

(日本固有種)

摘 要

サツキマスはアマゴの幼魚が変態してスマルトになり、海や湖へ降下して生育するマスで、西南日本の太平洋側に分布する日本特産のサケ科魚類の1種である。体長約30cmの小型のマスで、体側に赤点があり、近縁種のサクラマスやピワマスとは形態・生態・分布などの面でかなり異なっている。古くはアマゴの分布する西南日本の主要河川に遡河し、相当数漁獲もされたが、河川の汚濁やダム工事などで絶滅または激減し、現在自然の個体群が見られるのは長良川や伊勢湾周辺のみとなっている。サケ属魚類の降海型では世界の最南端に分布し、貴重な魚種といえる。

形態の記載

体側に生涯赤点を有し、背びれ12〜15軟条、しりびれ12〜14軟条、上部横列鱗数は25〜34、幽門垂数32〜58、頭長比3.88〜4.65、体高比3.29〜4.03である。鱗相は露出部の周縁で隆起線が一部切断、消失し、網目状構造はふつう形成されない。

近似種との区別

①サクラマスは体側に赤点がなく、鱗の露出部で大部分の隆起線が消失し(環走するもの5〜11本)、網目状構造が認められる。②ピワマスは幼魚期に赤点があるが、成魚期に消失する。幽門垂数は46〜77でやや多く、上部横列鱗数は21〜27でやや少ない。鱗の隆起線は露出部の周縁まで環走する。

分布の概要

天竜川・木曾川・長良川・宮川・那賀川・伊勢湾・瀬戸内海・土佐湾など、アマゴの分布圏の河川および沿岸海域に分布したが、各地で激減し、現在、河川と海を往復し再生産を行っている自然の個体群が見られるのは、ほとんど長良川と伊勢湾に限られるようになった。このほか海の代わりに湖へ降下する降湖型が諏訪湖と琵琶湖に分布する。なお、長良川・木曾川など伊勢湾周辺の河川や京都府の宮津湾に注ぐ河川では、降海性アマゴの人工放流が実施されており、また、各地の河川上流域でのアマゴの放流の結果、本来サクラマスの分布圏である日本海域においても降海性アマゴが分布するようになった。

近縁な種および群との分布状況の比較

日本野生動物分布表 1.	都道府県別分布表																																		
	北海道	青森県	宮城県	山形県	秋田県	福島県	茨城県	千葉県	東京都	新潟県	富山県	石川県	山梨県	長野県	静岡県	愛知県	三重県	大分県	静岡県	高知県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長門県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	
ニホマス (ニホマス)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ニホマス (ニホマス)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ニホマス (ニホマス)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ニホマス (ニホマス)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ニホマス (ニホマス)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ニホマス (ニホマス)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ニホマス (ニホマス)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ニホマス (ニホマス)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

注) アマゴ・サツキマスのJは、当該県には人為分布の個体群のみ分布することを示す

生態的特性

ライフサイクル

卵の期間 (ふ化まで)	仔魚期	稚魚期	幼魚期	スマルト期	未成魚期	成魚期
5℃で約3ヶ月	水底の砂礫中 5℃約3ヶ月で 卵殻吸収	河岸のよどみ で微細な餌を 食う、0+の3月 下旬~4月	0+の5月~10 月まで、おも に水生昆虫 を食う	0+の11月~1+の1月 まで、12月~1月に降 海する、おもに水生 昆虫を食う、	1+の2月~4月 .沿岸帯でお もに魚類を 食う。	1+の5月~ 11月、遡河 後絶食し秋 に産卵する